

<校訓>

真剣な学習, 思いやりの心, 逞しい体
<H31年度 重点目標>
自ら学ぶ, 自ら鍛える, みんなと生きる

あたごの子 III

岩間第一小学校便り第2号
平成31年4月9日発行
発行責任者 廣澤 敬

始業式児童代表の話の紹介

前号に引き続き、始業式で5年生の仲山愛莉さんが発表したことを紹介します。

演劇から学んだこと

私は、五年一組の仲山愛莉です。私のチャレンジについて話をいたします。

私は、一年前の四月から新たに始めたことがあります。それは、演劇です。運動は得意ではないのですが、体が柔らかかったので、ダンスにはきょう味がありました。そんな時、小美玉市の住民演劇ファミリーMYU（ミュウ）が劇団員をほ集していることを知りました。半年後に開催される「全国ヨーグルトサミット」で、ミュージカルを上演することが目的だったようです。

何となく「歌とダンスの両方ができていいかな…。」と思って、やってみたくなりました。練習は、半年間、毎週土曜日の夕方に行く予定であると書いてありました。最初、父親には、「勉強がおろそかになったり、家族で出かける機会が減ったりする」という理由で反対されました。また、「すぐあきらめるよ。」とも言われました。私は絶対にあきらめないし、勉強もがんばるからと父親を説得して、なんとか入団することを許してもらいました。

二十人位集まった中で、初めて演劇をする子は、私を入れて二人でした。最初は何をしようのか分からず、とても不安になりました。「やめておけばよかった。」と少し後悔しました。そんな時は、父との約束を思い出し、決してやめるもんかと自分をふるい立たせました。

練習は、楽しくできるのかなと思っていましたが、みんなとても真剣でおどろきました。私もつられて、真剣に練習に取り組むようになりました。最初はずかしかった発声練習も、みんなより大きな声で出来るようにならなりました。

練習の中で一番きびしかったことは、時間をきちんと守ることです。休む時間も分単位で決められていて、一分前に集合するという決まりがありました。私は集団で行動するためには、時間を守ることが大切なんだなと気付きました。この練習

のおかげで、私は決められた時間で集中して取り組むことができるようになったと思います。今まで、だらけてやっていた宿題も時間を決めて終わらせることができるようになったと思います

ミュージカル「ヨーグルトのまちで、白い妖精のきせき」は、昨年十月に二日間、小美玉市の「みのーれ」で上演されました。私は、きんちょうすると顔がこわばってしまいます。会場について衣裳部屋に行く途中、お友達からプレゼントが届いているよと、母から教えてもらいました。心喜ちゃん、えみりちゃん、かずさちゃんからのプレゼントでした。私は勇気づけられました。こわばっていた顔も、やわらぎました。おうえんしてくれるみんなのためにも、せいっぱいやろうと、気持ちを引きしめました。

開演した時は、ドキドキしながらも、今までの半年の練習の成果を出し切ろうと、気を引きしめました。本番前に行った発声練習では、大きな声が出たので、少し安心しましたし、生かそうとも思いました。練習の時にいったルーティンを思い出して、練習通り演技しようと考えました。

本番では、実力がでてみんなにほめられました。これまで努力を続けたことが実を結び、満足感でいっぱいでした。演劇をこれからも続け、みんなに笑顔を届けたいなと思いました。

今年から五年生、高学年になりました。演劇で学んだ「時間を守る」ということを学校生活にも生かし、みんなと仲良く生活していきたいです。

児童の登下校の見守りのお願い

ここ数年、登下校中の事故や事件が話題にあがることが多くなりました。時代が変わったからとおっしゃる方もおられますが、事故・事件を未然に防ぐためには、昔から地域の方が声を掛け合うことに変わりはないと考えています。

大切な子供たちが、気にかけていれば防げる事故や事件に巻き込まれないように、地域の皆様の温かいまなざしと、命の大切さを教える言葉かけが必要と考えます。